

成田市公設地方卸売市場運営審議会（第2回）会議録

1 開催日時

平成28年2月10日（水）午後3時10分～午後4時15分

2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所議会棟3階 第三委員会室

3 出席者

（委員）

岩澤貞男会長、篠原圭助委員、加瀬間俊勝委員、小泉嘉美委員、
廣野安弘委員、小宮山四郎委員、伊藤竹夫委員、神谷隆一委員、
柿澤利行委員、伊東利一委員、日置久恵委員、磯野徳子委員、

（事務局）

小泉一成市長、諏訪峰雄部長、五十嵐昭夫場長、成毛寛実主幹、
小倉博文主査、郡司芳己主査

4 内容

（1）成田市場の今後のあり方について（再諮問）

（2）第10次千葉県卸売市場整備計画に係る「成田市場の経営展望」の策定
について

5 議事（要旨）

（1）成田市場の今後のあり方について、市長から岩澤会長宛てに諮問書が提出された。内容的には、平成25年12月26日付けで答申を受けた内容のうち、「成田市場の将来性について」「整備手法のあり方について」の部分について改めて今回諮問したもの。諮問の理由としては、卸売市場を活用した農林水産物輸出拠点化への取り組みを前提として、成田市場の再整備を進めるため。

（2）今回の再諮問の詳しい内容について、「成田市場の今後のあり方・答申に対する再諮問の比較」の資料に基づき、事務局より説明した。要点としては、「市場の将来に向けた発展のため、当初から輸出に取り組む市場として整備したい。輸出拠点には、施設規模、敷地、環境などの要因はあるが、空港や東関東、圏央道などの交通ネットワークを最大限活用するため、空港近接へ移転し整備し

ていきたい。」など。

(3) 事務局からの説明を踏まえ、各委員より意見や質問を受けた。

(4) 諮問内容について、審議会の中で反対としての意見はなかった。ただし、市場内の既存団体等にもこの再整備の動きを周知し、課題を整理する必要があるのではとの意見が出た。

(5) 前回及び今回出された意見を整理し、答申に向けて引き続き審議を進める。(次回は3月中旬の予定。)

(6) 国の交付金等を受け、輸出拠点化を踏まえた再整備を今後進めるための条件として、第10次千葉県卸売市場整備計画の中で地方拠点市場として位置付けていただくことが必要であり、その要件として、「成田市場の経営展望」を今後策定する必要がある旨説明し了承を得た。

◆主な意見等

(意見)

今回の取り組みの中では、輸出拠点化と市場の再整備を併行して推進していくこととなるが、それぞれについて課題を整理していく必要がある。TPPの問題もあり、日本各地で輸出に取り組もうとする動きが加速するため、十分な議論は必要だが、一方で取り組みのスピード感は求められる。

地方拠点市場となるための要件は。

(事務局)

一定の基準以上の取扱高があることが必要となるが、現状では要件を満たしていない。ただし、成田市場が今後輸出拠点化に取り組むことにより、将来予測から県の10次計画で位置付けられるイメージである。

(意見)

施設の再整備にあたっては国の補助金等を受けることが望ましいので、当然輸出拠点化に取り組むことが優先課題であることは理解できる。市場内関係者等の意見を整理しながら着実に進めていくべきと考える。

(事務局)

国の交付金の交付率としては、交付対象となる施設の整備費用の3分の1ぐらいのイメージである。

(意見)

関連食品棟の方々が将来的な部分でどう考えているかについて、少しずつヒアリング等を行っている。移転を考えるとかなりの投資が必要となることから、これからのスケジュール等も含めて意見交換させていただきたい。

(意見)

輸出拠点化となった場合、仲卸業者としての立ち位置のイメージがまだできていない。輸出に取り組む新しい市場へ入っていくべきとの思いはあるが、今後どのようにして組合をまとめていくかが課題である。

(意見)

スーパー等の台頭により、流通の形態が崩れ市場の利用者が減少傾向にある。空港に近い地の利を生かし、今後は輸出にぜひ取り組むべきである。

(意見)

せっかく成田空港があるので、輸出には取り組んでいただきたいし、生産者としてできる限りのことはやっていきたい。

(意見)

市場が輸出拠点施設となった場合、地元の消費者がどのように利用できるかが気になる。

(意見)

水産物卸業者としては現在でも輸出に取り組んでいるが、今後の展望を考えると、成田市場として皆で勉強しながら取り組んで行く必要がある。

(意見)

食生活スタイルの変化から、野菜などは加工やカットもの等のニーズが主流の時代となり厳しいが、成田は周辺が農業地帯である産地市場であり、物流機能が整えば展開は開けると考えている。

(意見)

関連棟は業種、施設規模も様々で、今後の展開に対する意見もまとまってはいない。厳しい選択ではあるが、私は、市場としては新たな取り組みをすべきと考えている。また、将来に向けて取り組む企業の育成という点で、行政からの多方面での支援が必要と考えている。

(意見)

成田市場近隣は生鮮野菜の一大産地であるので、再整備により近隣農家からたくさんの野菜が集荷されることを期待している。せっかく特区の指定を受けたのだから、このチャンスを生かしていくべきである。

(意見)

消費者の立場から考えると、市場ならではの魅力があれば利用者の足は自然に向くと考える。

(意見)

今回の特区提案は成田市にとっても大きなチャンスである。移転するならば空港近接が望ましい。具体的な検討はこれからだと思うが。

(意見)

雇用確保の面でも場所は交通の便の良いところを。場所の選定にあたっては周辺地域も巻き込んで発展していけるような移転先の選定を。

(意見)

経営展望を策定するにあたっては、取扱量など数字的なものだけでなく、新たな経営手法など他の要素も十分考慮して進めてほしい。

(意見)

市場経営は現状維持では先行きが不透明なのは言うまでもない。新たな取り組みとして、輸出や加工機能をベースとして、その他市民に喜ばれるようなスペース、外国人旅行客などが気軽に立ち寄れるスポットなども絡めた構想を展望の中に入れ込んでいければ。

(意見)

輸出に取り組むためには、日本各地から集荷できるようなシステムが当然必要となる。

(意見)

周辺の人たちは、成田市場の動きに皆関心を持っている。

(意見)

現在の市場の中で働いている人たちに、輸出拠点化に対する動きに対しての情報が十分行き届いていないのでは。市場内への周知と意見収集を。

(事務局)

この市場輸出拠点化への取組みについても、様々な面で正式に動き出しているのので、市場内の方々へも一層情報発信に努めていく。

(市長コメント)

色々意見をいただいたが、輸出拠点化への取組み、それに伴う空港周辺への移転などについて今後も推進していきたいので、引き続き当審議会においてご審議いただきたい。また、充実した交通ネットワークの活用により、周辺地域はもとより、北関東や東北方面など日本各地からの集荷拠点となるような市場をつくるべきと考えている。移転場所の選定については正式に答申を受けた後となるが、検討は始めていかなければならないのかなと感じている。

6 傍聴

8名（うち記者3名）

7 次回開催日時（予定）

平成28年3月中旬の予定